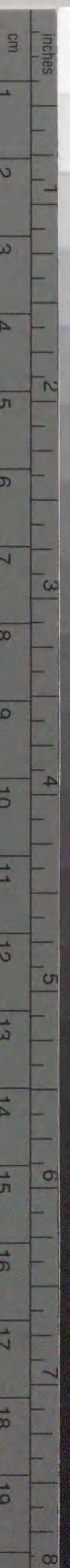


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



Y994-J10295



1200901349674

學校通論

二

Y994-J10295

學校通論卷二

第五 學校ノ家屋

箕作麟祥譯述

學校家屋ノ造方及ヒ整備ノ方ヲ委ク論スルハ此書ノ
 眼目タル所ニ非スト雖モ教導ヲシテ能ク其目的ヲ達
 セシムルハ學校ノ為メ適宜ノ場所ヲ設ケ且適宜ノ方
 便ヲ備ルニ在リ是レ此書中ニ學校家屋ノ事ヲ略論ス
 ル所以ニシテ殊ニ米國田舎ノ地ハ槩子學校家屋ノ造
 方ニ疎ク之ヲ論示スルニ必要ナリ故ニ今此書ニ記ス
 ル所多クハ田舎ノ公立學校ノ造方ヲ以テ其旨趣トス
 學校家屋ノ事ニ付キ取モ注意ス可キ諸件ヲ記列スル



I 種
W



1200901349674

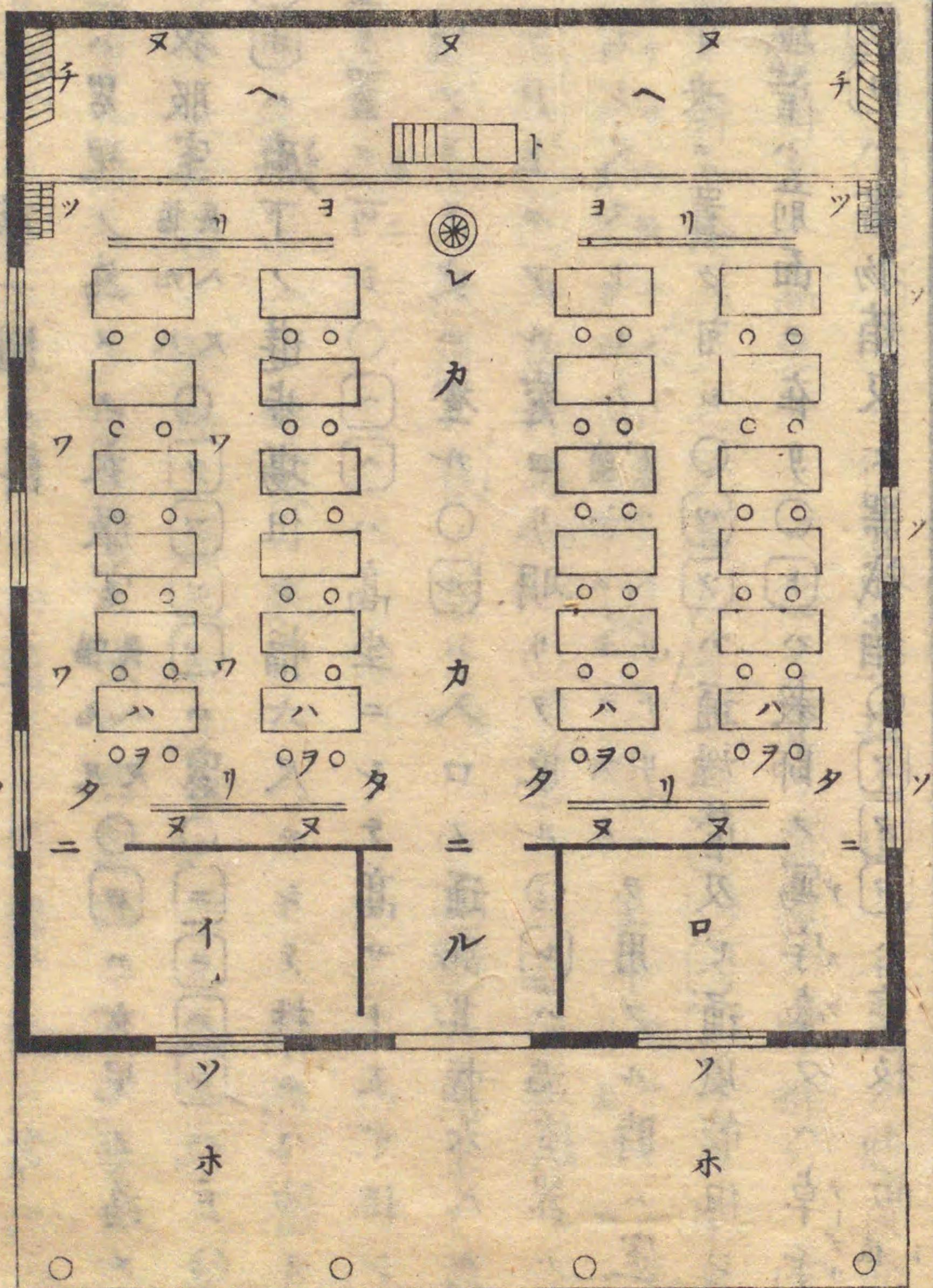
一 大約左ノ如シ
 第一 大サヲ論ス○學校家屋ノ大サハ其生徒ノ多寡ニ管ス可キカ故ニ教師一員ノミノ等級ヲ立テサル學校ノ家屋ハ其方積九百方尺ニ下ラス而メ其家屋内ハ玄關高座便所等ノ場所ヲ除クノ外大略五十人ノ生徒ノ坐席ト其復習ノ場所トヲ設ク可シ又五十人乃至八十人ノ生徒ヲ教ヘ且別ニ一箇ノ復習室ヲ設ク可キ學校ノ家屋ハ其方積千五百方尺ニ下ラサル可ク又八十人乃至百二十人ノ生徒ヲ教ヘ且別ニ二箇ノ復習室ヲ設ル學校ノ家屋ハ其方積二千方尺ニ下ラサル可シ
 第二 形ヲ論ス○田舎ノ地ニ於テハ學校家屋ノ形正

角ナルヲ家良トシ其入口ハ南ニ在テ北ハ窓ナカレ可シ蓋シ前ニ記スル三種ノ學校ハ其大サノ區別ニ從ヒ五十人ノ生徒ヲ教ユル學校ノ家屋ハ奥行三十八尺横幅二十五尺ナル可ク五十人乃至八十人ノ生徒ヲ教ユル學校ノ家屋ハ奥行五十二尺横幅三十尺ナル可ク八十人乃至百二十人ノ生徒ヲ教ユル學校ノ家屋ハ奥行五十六尺横幅三十二尺ナル可シ又天井ハ家屋ノ大小ニ管セス其高サ十二尺乃至十六尺ナル可シ然ル時ハ大ニ家屋ノ美ヲ添ヘ生徒ノ健康ヲ助ケテ其愉快ヲ増サシム可シ

第三 屋内ノ整備ヲ論ス○凡ソ學校ノ家屋ニハ帽子、

女帽子、女ノ肩巾、外套、傘、辨當籠等ヲ置ク室ヲ設ケ又復
 習ノ室或ハ復習ヲ為ス間生徒ノ為メ適宜ノ坐席ヲ設
 ケ又教師ノ坐席ト為シ且生徒ノ試業或ハ生徒ニ諸物
 ヲ示スニ用フル為メノ高坐ヲ設ケ又書物箱、器械箱ノ
 置場所及ヒ塗板^{ブラス板}ニ代用ス可キ白塗ノ壁ヲ設ケ又諸生
 徒ノ坐席ト其出入ノ通行路トヲ設ケ可シ蓋シ此等ノ
 諸事ハ等級ヲ立テサル公立學校ニ於テノ緊要ナル諸
 件ヲ示ス者ニシテ次ニ掲クル第一ノ略圖ニ就キ之ヲ
 看ル可シ

第一略圖



第一圖ノ解

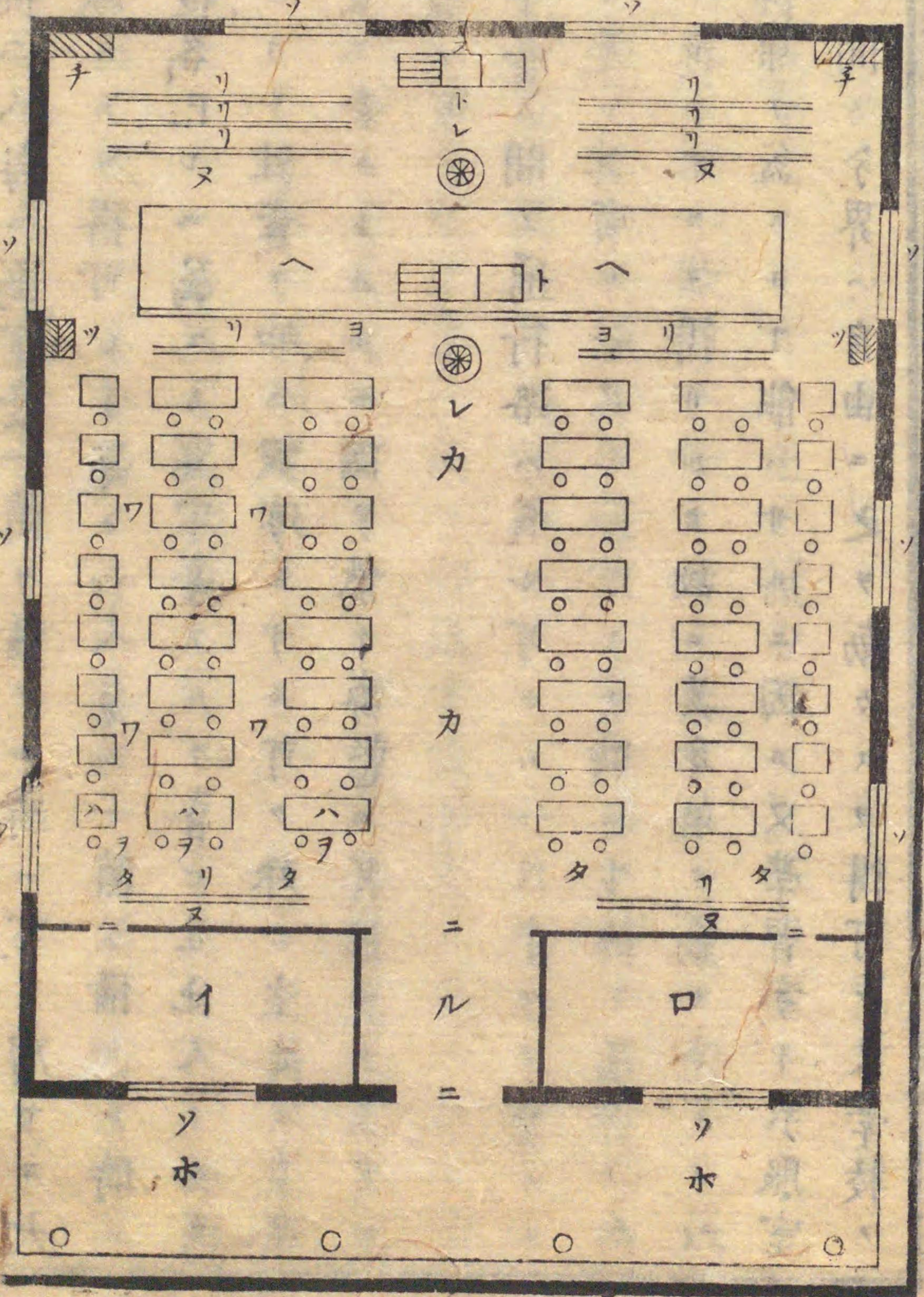
①ハ男児ノ為メノ衣服室 幅九尺 長八尺
 ノ衣服室 幅九尺 長八尺
 ②ハ窓
 ③ハ窓
 ④ハ窓
 ⑤ハ窓
 ⑥ハ窓
 ⑦ハ窓
 ⑧ハ窓
 ⑨ハ窓
 ⑩ハ窓
 ⑪ハ窓
 ⑫ハ窓
 ⑬ハ窓
 ⑭ハ窓
 ⑮ハ窓
 ⑯ハ窓
 ⑰ハ窓
 ⑱ハ窓
 ⑲ハ窓
 ⑳ハ窓
 ㉑ハ窓
 ㉒ハ窓
 ㉓ハ窓
 ㉔ハ窓
 ㉕ハ窓
 ㉖ハ窓
 ㉗ハ窓
 ㉘ハ窓
 ㉙ハ窓
 ㉚ハ窓
 ㉛ハ窓
 ㉜ハ窓
 ㉝ハ窓
 ㉞ハ窓
 ㉟ハ窓
 ㊱ハ窓
 ㊲ハ窓
 ㊳ハ窓
 ㊴ハ窓
 ㊵ハ窓
 ㊶ハ窓
 ㊷ハ窓
 ㊸ハ窓
 ㊹ハ窓
 ㊺ハ窓
 ㊻ハ窓
 ㊼ハ窓
 ㊽ハ窓
 ㊾ハ窓
 ㊿ハ窓

白塗
 ①ハ復習ノ腰掛ケ但シ不用ノ時後面
 ノ腰掛ケハ高坐ノ上ニ之ヲ置キ前面ノ腰掛ケハ兩
 側ノ壁ニ漆ヘテ之ヲ置ク可シ
 ②ハ寫字臺
 長サ四尺幅一尺半高
 サ廿五寸乃至廿九寸
 ③ハ坐席 高サ十二寸
 乃至十六寸
 ④ハ大通行路 幅三
 尺
 ⑤ハ高坐ノ前
 ノ空所 幅三
 尺

前ニ出セシ第一ノ略圖ハ教師一人ノモノ等級ヲ立テ
 サル學校家屋ノ大略ヲ掲ケ示ス者タルカ故ニ此ニ亦
 學習室ニ漆ヘ一ノ復習室ヲ設ケ且教師二人ヲ要ス可
 キ負數ノ生徒ヲ容ル、ニ相適スル同種學校ノ第二ノ

略圖ヲ左ニ揭示ス而シテ其合印ニイロハノ字ヲ用ヒ指
 示スルハ第一圖ト相異ナルナキニ因リ令復夕之カ
 為メ更ニ圖解ヲ贅セス蓋シ第二圖ニ記スルハ復習
 室ハ其幅十尺ニシテ坐席ト為ス椅子及ヒ塗板ノ如キ
 ハ夥多ノ數ヲ備ヘ且書物箱器械箱ヲ便宜ノ為メ復習
 室ニ入ル可ク火焼滅ハ一箇所ニシテ雙方ノ室ヲ温ム
 可シ又此第二圖ニ記スルハ學習室ニ八十人ノ生徒
 ノ椅子ヲ具フル者トスレバ若シ其室ヲ稍大ニスル時
 ハ百二十人ノ生徒ノ椅子ヲ具フルヲ得可シ然ル時ハ
 亦其復習室モ更ニ大ニシテ之ヲ二箇ニ分テ教師ノ補
 佐二人ヲ用フ可シ

第二略圖



生徒二人毎ニ寫字臺一箇ヲ備フル時ハ室ノ廣サヲ大ニ減スルヲ得可シト雖モ一人毎ニ一箇ヲ備フル時ハ生徒各已レニ屬スル寫字臺アルヲ喜ヒ且他人ト共通スルヨリ注意ヲ加ヘ毀壞モサル可ク殊ニ生徒ノ坐席ヲ互ニ分タシムルニ因リ能ク齊整ニ其位置ヲ立ツルノ益アリ

寫字臺ノ間ノ通行路ハ成ル可クハ一尺半ヨリ廣カル可シ是レ其廣サ一尺半以下ナル時ハ生徒ノ通行ヲ為スニ速カナルヲ得サルカ故ニ其身體ヲ動カサシメ以テ健康ヲ益スルヲ能ハサルニ因ル又學習室ト衣服室トノ間ノ分界ハ自由ニ之ヲ動カスヲ得可ク又學校ノ

壁ハ石色又ハ薄鳶色ニ塗ル可ク又學校ノ器什ハ栗色又ハ櫻實色タル可シ蓋シ讀者此ニ記スル所ヨリ更ニ大ナル學校ノ結構ヲ知ラント欲シ又ハ更ニ詳細ノ説ヲ得ント欲セハ須ラク學校ノ築造法ヲ以テ其専門トスル他書ニ就テ之ヲ看ルヘシ

第四 復習室ノ事ヲ論ス○通常復習室ノ為メ家モ適宜ナル形ハ正角形ナル可ク而シテ復習ノ業ハ之ヲ塗板ニ書スルヲ以テ規則トシ且復習室ノ長サハ其横幅ノ二倍タル可シ又復習室數箇ヲ備フル學校ニ於テハ各一学科ノ復習ニ其各室ヲ用ヒ学科ノ種類ニ從テ各室ヲ敷設シ且其器械什物等ヲ具フ可シ今之ヲ例スルニ

数学ノ復習室ニハ数学ノ表類諸形ノ木片模形方圓形
 ノ圖数学器械数学書籍等ヲ備フ可ク又地理歴史科ノ
 復習室ニハ「晝夜四季ヲ測ル器具」テルルリアン測ル器具天球地球地圖海
 圖地理字書雙眼鏡繪圖古器械等ヲ備フ可ク又物産学ノ
 復習室ニハ此学科ニ必要ナル諸器械並ニ鳥獸草木金
 石ノ家好ナル見本ヲ備フ可ク又術藝ヲ專務ト為ス復
 習室ニハ古人ノ書画彫刻物等ノ見本ヲ其弊ニ懸ケ示
 ・又其弊ニ四所ヲ造リテ古人ノ立像ヲ備フルカ如ク
 而メ此ニ記スル所ハ真ノ概畧ノミニ過キサルカ故ニ
 實際ニ涉リ之ヲ施スハ各學校職負ノ撰ム所ニ任カス
 可シ蓋シ此等ノ諸事ハ小中大ノ學校ノ別ナク之ヲ行

フラ得可キヲ固ト疑フ容ル可キニ非ス之ヲ且其有益
 ナルモ亦疑フ可キニ非サルニ因リ此ニ記スル所ニ基
 キ適宜ニ趣味ヲ加ヘ復習室ヲ整齊スル時ハ其復習室
 恰モ黙坐シテ教ヲ施ス師傅ニ似テ生徒終身其歡娛ヲ
 記憶シ取テ忘レサルニ至ル可シ
 第五 地窖ノ事ヲ論ス○學校ノ地窖ノ用ハ木板ヲ乾
 カシ薪炭ヲ貯ヘスト「フ」又ハ火燒灰ヲ置ク為メニシ
 フ又其明リ取ト風抜トノ善ナル時ハ雨天ノ時之ヲ児
 童ノ遊戯場ト為スラ得可キカ故ニ其初メ能ク注意ヲ
 加ヘ之ヲ造ル可シ但シ地窖ヲ以テ兒童ノ遊戯場ト為
 ス時ハ其天井ノ高サ八尺ヨリ少カラシメス以テ地面

上二尺以上ニ達セシム可シ又地窖内部ノ躰ハ敢テ丁
寧ニ之ヲ塗飾スルニ及ハス且窖中ノ入口ハ學習室
ノ内其都合善キ場所ニ之ヲ設ク可シ
第六明リ取ノ事ヲ論ス○光明ノ身体健康ニ缺ク可
カラサルハ固ト言ヲ待タスレテ明リ取ノ善ナル家室
ニ住スル者ハ暗昏ノ家室ニ住スル者ヨリ病ニ罹ルノ
患少ク又明リ取ノ善ナル家室ハ自カラ愉快ニシテ活
潑ナル者ナリ
光明ヲ室ニ容ルハニ窠良ノ法ハ屋蓋ニ天窓ヲ造ルニ
在リ然ル時ハ光明ノ力强ク且室内ニ行渡ルヲ等分ニ
シテ影ヲ生スルノ害ナシ然レバ家屋ノ造方ニ因リ間

天窓ヲ造ルヲ能ハサル者アルカ故ニ然ル時ハ室ノ兩
側ニ數箇ノ窓ヲ設クテ光明ヲ容ル可シ蓋シ室ノ前面
ニ窓ヲ設クル時ハ光線直ニ人目ヲ射テ大ニ其視カヲ
害シ又室ノ後面ニ窓ヲ設クル時ハ人体ノ背後ヨリ光
線ノ来ルヲ以テ常ニ暗影ヲ生シ光線ノ室内ニ行渡ル
ヲ等分ナラサル可シ又學校家屋ノ窓ニハ皆窓蓋ヲ備
フ可ク縱令窓蓋ヲ備ヘサルモ帳幃ハ必ス之ヲ備フ可
シ
第七 温室器ノ事ヲ論ス○方今米國ニ於テ學校ノ室
ヲ温ムル方法ハ甚ク其宜シキヲ失ヒ通例ストトフヲ
室ノ中央ニ置クカ故ニ寒冷ノ時其側ニ坐スル生徒ハ

熱ノ為メニ苦メラレ又離レテ坐スル生徒ハ寒ノ為メニ苦メラレ一室内温度ノ差異数度ニ及ビ殊ニストーブノ側ハ常ニ塵埃ヲ堆シ薪炭ヲ置キ又小遊惰生等相集合シテ毀害ヲ好ム児童ノ團聚スル場所トナリ且火ノ燃ル音ト其烟トニ因リ生徒ノ意メ常ニ害アル者トス

此等ノ害ヲ防クカ為メ温室ノ器具ヲ窖中ニ置ク可ク而メ温室器ト薪炭トヲ藏スルニハ窖内ノ小一部ノミヲ以テ足ルヲ得可シ蓋シ一室ヲ温ムル為メニハ小キ温室器一箇ノミニシテ十分ナル可ク且其價ハ大ナルストーブト僅カニ少許ノ差アルニ過キス若シ又ストー

ブヲ用フル時ハ必ス鐵葉ノ外套ヲ以テ之ヲ包ミ温氣ヲシテ窖中ニ散セシムルコトナクストーブノ蓋ヨリ上ノ室内ニ之ヲ入ラシム可シ又窖内狹小ニシテ僅カニ温室器ヲ置ク處ト薪炭ヲ藏スル處トノミニ過キサル時ハ上ノ室内ニ於テ亦モ其妨ケ少ナキ場所ヲ擇ミ墜戸ヲ造テ窖内ヘノ入口ト為シ且温室器ニ觸ル可キ大氣ハ常ニ清潔ナルニ注意ス可シ但シ此ノ如ク為ス時ハ如何ナル場所ニ於テモ温室器ヨリ室内ニ入ル温暖ノ大氣其室内ニ行渡ルコト等分ナル可シ

若シストーブヲ室内ニ置カサルヲ得サル時ハ鐵葉ノ外套ヲ以テ之ヲ包ミ其外套ハ林板ヨリストーブノ上

大略一尺ノ所ニ達セシム可ク而シテ其外套ニ穴ヲ穿チ
其穴ヨリ薪炭ヲ差入レ又新鮮ノ大氣ヲ送入ス可キ管
ハ其家外ニ出テ牀板ノ下ヲ通リテ直ニストーフト相
通セシム可シ蓋シ此整備ノ法ニ随フ時ハ温氣善ク室
内ニ行渡リ尋常ノストーフトヲ用フル室内ニ於ケルカ
如ク凍風ノ戸窓下又ハ牀壁ノ孔竅ヨリ入来リ牀板上
ヲ吹通スノ患アルコトナシ
巨大ナル学校ハ大氣ヲ温ムル火燒所又ハ蒸氣ヲ發ス
ル器械ヲ以テ之ヲ温ムルヲ常トスレモ今此書中ニハ
之ヲ論セズ

第八 風枝キノ事ヲ論ス○學校諸室ノ窓ニハ皆滑車

ヲ具ヘ以テ其上ケ下ケニ便ナラシム可ク而シテ窓戸ノ
開閉其便ヲ得ル時ハ風枝キモ亦隨テ善ノリト雖モ宜
モ之ヲ宜良ニ為スニハ學校ノ家屋内部ノ造方ヲ示シ
クル略圖前ニ出セル第一ノ畧圖ヲ云ニ見ハセシカ如ク為ス可シ
但シ其法ニ據レハ通煙管地窖内ヨリ床板ヲ貫テ屋蓋
上ニ出テ又通風管床板ノ所ヨリ發シ通煙管ノ前面ニ
於テ之ト並行シ其間ハ僅カニ鐵板ヲ以テ之ヲ隔テ亦
同シク屋蓋上ニ出ツルカ故ニ通煙管中ノ煙リ通風管
中ノ大氣ヲ温メ之ヲ膨脹セシメテ烈シク上ラノ且
通風管中ノ大氣取テ通煙管中大氣ノ流通ヲ妨クルコ
トナシ

通煙管並ニ通風管ハ豎九寸横二十四寸許タル可ク又
ストーブ或ハ火燒灰一ハ二箇ノ管ヲ設ケ各雙方ノ通
煙管ニ通ス可シ又通風管ニハ天井ト林板トノ二箇灰
ニ蓋ヲ設ケ置ク可ク然レモ天井ニアル蓋ハ室ノ温熱
ニ過クル時ノ外ハ開校ノ間常ニ之ヲ閉シ置ク可シ但
シ其故ハ不潔ノ大氣ハ通常ノ大氣ヨリ重キカ故ニ林
板ノ灰ニ在ル其出口ヨリ多分ハ外ニ出ツ可キ事因ル
前ニ記スル灰ハ小學校風抜ノ方法ニシテ巨大ノ學校
ニ於ケル錯雜難解ノ方法ハ今此ニ記セス若シ之ヲ知
ラント欲セハ須ラク他書ニ就テ之ヲ看ルヘシ

○第六 學校ノ物什

學校物什ノ事ニ付テモ亦差解明ヲ加フ可キノ必要ナ
ルカ故ニ此ニ又左ノ數件ニ分チ以テ之ヲ説ク可シ
第一 寫字臺及ヒ椅子○學校ノ室ニ於テハ生徒其教
師ニ對坐ス可ク又其寫字臺及ヒ椅子ハ其造方ヲ善ニ
シ生徒ノ身ノ丈ニ適當シテ其憑依スル間其身体ヲ易
安ナラシム可シ但レ椅子ハ其高サ十二寸ヨリ十六寸
ニ至ル可ク又寫字臺ハ生徒二人ヲシテ之ヲ兼用ヒシ
ムル時ハ其高サ二十五寸ヨリ二十九寸ニ至リ豎十八
寸横幅四尺タル可ク又生徒一人ヲシテ之ヲ用ヒシム
ル時ハ其高サ及ヒ豎ヲ二人ヲシテ用ヒシムル者ト同
クシ唯其横幅ヲ二尺ニ減ス可キニ因リ其寫字臺一椅

子トラシテ林板ノ面長サ三尺ノ場所ヲ覆ハシテ可シ
椅子ノ造方ハ之ヲ平ニ置キ生徒ヲシテ之ニ依リ寫字
臺上ニ於テ文字ヲ書スル時其椅子動カス容易ニ前ニ
傾クヲ得セシメ又讀書學習ヲ為ス時ハ後ニ傾クヲ得
セシムル者タル可シ然ル時ハ生徒ノ之ニ依ル易安ナ
ルカ故ニ其身体ノ模様モ亦適宜ナルヲ得可ク且之カ
為メニハ寫字臺ト椅子トヲ固ク林板ニ附着セサル可
カラス又墨入^{イキリ}ハ決シテ寫字臺ノ内ニ置ク可カラス若
シ之ヲ寫字臺内ニ置ク時ハ其蓋開キ又ハ破壊シ且其
周圍ノ寫字臺ハ之カ為メ汚ルハノ患アリ
教師ハ高坐ノ中央ニ卓子ヲ備フルヲ以テ寫字臺ヲ用

フルヨリ更ニ便ナリトス殊ニ書籍及ヒ器具類ヲ入ル
箱ヲ別ニ備フル時ハ卓子ヲ用フルト更ニ便ナリ但
シ教師ノ卓子ハ仄々ニ動カストヲ得可キ者タル可シ
復習ノ椅子ニハ後ニ倚掛ル仄ヲ備ヘ且其椅子ハ仄々
ニ動カスヲ得可キ者タル可ク而メ通常ハ之ヲ高坐ニ
接込セシ各寫字臺ノ前ノミニ置ク可シト雖モ若シ必
要ノ事アル時ハ蝶^{テラ}絞ヲ以テ後ノ椅子ト相連接セシム
可シ但シ復習ノ椅子不用ナル時ハ後ノ椅子ヲ翻轉シ
テ前ノ椅子上ニ置ク可シ
第二 高坐○教師ノ卓子ノミヲ置ク為メニハ僅カニ
數尺四方ノ高坐ヲ以テ十分トス可シト雖モ各學校ニ

此本通論
卷二

於テ生徒來聽者ノ前ニ於テ復習ヲ為ス可キ間少カ
カラサレハ此ノ如キ時ハ生徒來聽者ニ對シタル高坐
上ニ於テ復習ヲ為ス_ト適宜ナル可シ故ニ高坐ノ幅ヲ
室ノ幅ト同一ニ為シ其豎ヲ少クトモ六尺トシ其高サ
ヲ十五寸ト為シ二壇アリテ之ニ登ル可ク又書籍及ヒ
器具ヲ入ル箱ハ高坐ノ極端ニアルヲ以テ取モ便ナ
リトス

第三 塗板〇塗板ハ學校ノ物什中ニテ其取モ缺ク可
カラサル_ト猶農夫ノ為メニ鋤ノ缺ク可カラズ瓦工ノ
為メニ鉋ノ缺ク可カラズ外科ノ為メニ割刀ノ缺ク可
カラサルカ如ク凡ソ學習復習共ニ塗板ノ益ヲサ
ル

ナシ

塗板ハ直チニ高坐ノ後ニ置キテ其幅高坐ノ幅ト同シ
ク又其他白色ノ壁アル所ニ之ヲ置ク可シ蓋シ如何ナ
ル教師ト雖モ未タ塗板ノ數多キニ過キ之ヲ患トセシ
者アルヲ聞カス是レ教師ハ現ニ復習ヲ為ス生徒ノ為
メニ塗板ヲ要シ而メ復習ノ預備ヲ為ス生徒ノ為メニ
モ亦塗板ヲ要シテ教師現ニ年長ナル生徒ノ復習ヲ為
ス間年少ノ生徒其復習ノ預備ノ為メ或ハ塗板ニ圖ヲ
引キ或ハ文字ヲ書スルノ有益タルニ因ル
塗板ハ幅五尺ニシテ上ヨリ垂レ木板上ニ尺ノ厚ニ及
ブ可シ

塗板ノ家良ナル種類ハ石板ヲ以テ造リタル者トシ其
大廿ハ四五尺四方タル可シ然レモ小學校ニ於テ常用
ニ備フルニハ其價貴キニ過キ又水ノ塗板ヲ用フル時
ハ善ク乾枯シタル家良質ノ「ポプラ」樹名又ハ「バイン」樹名
ノ板ヲ以テ造ル可ク且其製法ヲ善クシ其塗方モ亦巧
ニス可シ

又壁面ヲ以テ塗板ニ代用スル時左ノ諸品ヲ混合シ用
フレハ其價廉ニメ十分其用ヲ達マル者ヲ造リ得可シ
又白色ノ上ハ塗土
濱岸砂又ハ其他ノ
微細ナル砂
四「ベック」升目ノ名ニテ「ベック」ノ四合ニ當ル
四「ベック」

鮮土
烟煤
アルコール又ハ上
等ノ「キスキ」酒
四「ポック」
四「ボレド」

此分量ノ混合物ハ二十方「ヤード」ノ面ヲ塗ルニ足ル可
ク又金剛砂粉ヲ少シク其中ニ混スル時ハ其混合物直
チニ凝結フルノ患ナキカ故ニ善ク意ヲ用ヒテ丁寧ニ
壁ニ塗附ルヲ得ルノ暇アリ但シ金剛砂粉ヲ用ヒタル
時ハ一時ニ其混合物ノ少量ヲ塗り時間ヲ隔テ更ニ復
タ之ヲ塗ルノ法ヲ用フ可シ
塗板ニ代用ス可キ壁ハ室内其他ノ所ト同シク鮮土ヲ

塗ル可ク唯其異ナル者ハ白キ上ハ塗ヲ為サス黒キ混
 合物ヲ塗ルニ在リトス又鮮ニ黒キ混合物ヲ塗リタル
 後ハ意ヲ用ヒテ之ヲ濕シ且之ヲ摩擦シテ孔竅ヲ填メ
 其面ヲ堅ク滑ニ為ス可シ又若シ従前ノ黒面ヲ塗直サ
 シトスル時ハ善ク之ヲ濕シ同一ノ混合物ヲ以テ更ニ
 其面上ニ塗ル可シ蓋シ當今米國「ヒラデルヒフ」ヨウヨ
 ル「ボストン」及ヒ其他ノ場所ニ於テ製スル所ノ彼ノ
 石板模造ノ塗板ハ真ノ石板ヨリハ劣ルト雖モ其他ノ
 塗板ニ比スレハ殊ニ勝ル者トス又千八百六十二年「ナ
 カゴ」教育事務委員ノ報告書ニ塗板ニ塗ル混合物ヲ製
 スルノ法ヲ記セリ即チ左ノ如シ

右混合物「ガルコロ」ヲ製スルニハ輕石粉十「アルコ
 磨石粉六「アルコ」烟煤一「ホンド」ノ四分三「アルコ」
 ルト混シテ濃キ糊ノ如キ物ヲ造リ其混合物ヲ臼ニ
 テ微細ノ粉末ト為シ然ル後前ニ用ヒタル「ガルコ
 ル」ノ「アルコ」ノ残り分ノ中ニ「セルソック」桐脂 大約
 十四「アルコ」ヲ溶解シ此等ノ諸物ヲ相混シテ之ヲ振
 リ動ス時ハ直チニ用フルヲ得可キ混合物ヲ製ス可
 ク而シテ此混合物ヲ塗ルノ方法適宜ナル時ハ善美ノ
 黒面ヲ為ス可シ

塗板ノ周圍ニハ格ヲ附ケ其下側ニ塵埃ヲ取ル可キ溝
 ヲ設ケ又塗板ニハ指示竿及ヒ摩擦具ヲ懸ク可キ鉤ヲ

附ス可シ但シ塗板ニ用フル筆ハ製造シタル白堊及ヒ
 震母石ヲ以テ造ル可シ其下同一堅固ノ木ヲ用テ
 第四 什物雜種 ○學校ノ事業ヲ整齊シテ善ク其法度
 ヲ行ハントスルニハ必ス自鳴鐘ナキ能ハス是レ自鳴
 鐘ハ時ノ過キ行クヲ生徒及ヒ教師ニ教ユル靜黙ノ警
 戒者ト稱ス可ク且其常ニ戒ムル所ハ怠ル勿レト言フ
 ニ因ル
 美音ヲ發スル小鈴ヲ具ヘテ一組ノ生徒ヲ呼出シ又ハ
 之ヲ送遣スルニ用ヒ若クハ學校ノ規則ニ背キ騷亂ヲ
 為ス者ヲ戒ムルニ用フルト亦甚ク必要ナリ又學校ニ
 鐘ヲ懸ル器具ナキ時ハ教師ノ手ニ持テ振ル可キ所ハ

大鈴ヲ具ヘ生徒ヲ遊戯場ヨリ呼ヒ迎フルノ用ニ供ス
 可シ
 學校ニ來ル客ノ為メ坐床一對又ハ數箇ノ椅子ヲ具フ
 ルト亦必要ナリ
 指示竿、摩擦具、帚、削具、手洗器、手桶、傘立等ノ如キ雜具
 ノ入用ナルハ固ヨリ言フ待タサルナリ
 ○第七 學校ノ器械
 學校ニ諸種ノ器械ヲ備フルノ必要ナルハ隨所常ニ衆
 人ノ信セサル所ト雖モ是レ頗ル誤謬ト謂フ可ク教師
 ノ職務ヲ幫助スルハ適宜ノ器械ヲ備フルニ起ユル者
 アラス蓋シ人ヲシテ能ク其心ニ事物ヲ解セシムルノ

家良法、現ニ之ヲ目撃セシムルニ在テ児童ニ示スニ
 實物ヲ以テスル時ハ善ク其心ニ記憶セシムルノ効數
 回之ヲ説明スルニ勝レリトス
 凡ソ各所ノ學校ニ備フ可キ器械中ニテ家ニ重立チカ
 ル者ハ左ノ如シ
 [エ][ビ][シ]ノ字、發音、綴字、讀書初步ヲ教ユル紙牌及ヒ之
 ヲ懸ク可キ臺、文字ヲ象リタル木片、字韻ノ音、習字音
 一組ノ生徒ト一人ノ生徒トニ適スル為メ大小ノ画
 學教導紙牌及ヒ其形ヲ画ク為メノ數種ノ物品、數字
 紙牌及ヒ立方平方根ヲ示ス木片一揃、地球儀略大地
 圖、テルリニア、歴史圖、礦物及ヒ古物ヲ集メタル箱

物体教導ヲ為スタメノ數種ノ物品及ヒ繪圖、彫刻物
 寒暖計、字書、地理字書、諸般ノ学科ヲ學習スルニ參考
 ノ為メ備フ可キ採擇シタル書籍類
 此ニ記列スル物件ハ其費少ナク且之ヲ備フルモ容易
 ナルカ故ニ公立學校ニ於テハ缺ク可カラサル者トス
 上等小學校、中學校、大學校ニハ格物窮理ノ器械ヲ十分
 ニ備ヘ且珍品、書籍、地圖、海圖等ヲ多ク集ム可ク又古
 ノ名画及立像等ヲ備フルモ宜シキニ適シタル者トス
 學校ノ器械ハ善ク注意ヲ為ス時ハ久シク之ヲ用フル
 ヲ得可シト雖モ若シ取扱方ノ急暴ナル時ハ之ヲ買ヒ
 備フルヤ否忽チ之ヲ毀壞ス可シ故ニ其器械ヲ保全ス

ルニハ之ヲ用フル時丁寧ニ取扱フ可ク又之ヲ用ヒサ
 ル時ハ各品ヲ其箱筐中ニ藏メ善ク注意シテ其戸蓋ヲ
 鎖シ塵埃又ハ虫ノ入ルヲ防キ且魯暴ノ者ノ手ニ觸レ
 シム可カラズ
 公立学校ニ於テ学校ノ器械ヲ保全スルハ学校地所學
 校家屋学校什物ヲ保全スルカ如ク教師タル者其責ニ
 任マ可キカ故ニ其性ニ適應スル教師監督ヲ為ス時ハ
 生徒学校ノ財産ヲ汚穢シ又ハ毀損スルノ患ナシト雖
 モ若シ教師其職ヲ怠リ生徒ノ之ヲ汚穢シ又ハ毀損ス
 ルヲ恣ニスル時ハ学校ノ事務ヲ扱フ者ヨリ嚴ニ之ヲ
 譴責マ可シ蓋シ余カ嘗テ見ル所ニ就キ之ヲ言フニ學

校地所ノ塼牆破壞シ且其地所ニハ塵埃堆積シ又家屋
 内外ノ壁ニハ滲ニハ滲ニ怪異ノ形像ヲ画キ戸窓什物ハ皆児
 童ノ為メニ毀損セラレ器械ノ類ハ或ハ亡失シ或ハ其
 工合ヲ損シ以テ用ヲ為ササルカ如キ實ニ歎息ニ堪ヘ
 サル所ナリ故ニ学校ノ監事又ハ学校掛人ノ職責ヲ取
 テ学校ノ財産ニ金ヲ費スヲ欲セス且器械ノ如キモ之
 ヲ買入ルハ好マサルハ亦敢テ其理ヲシトシテ驚ク
 ニ足ラサル者トス希クハ教師タル者自カラ已レノ任
 タルヲ願ミ以テ此風ヲ改ムルニ其意ヲ注ス可シ
 田舎ノ地方ニ於テ閑校ノ間ハ器械類ヲ其預リ人ノ家
 ニ藏シ又学校ノ家屋ハ其近隣ノ人ニ預テ其財産ノ毀

損ヲ防ク可シ

○第八 學校ノ記録

學校ノ記録ニ管スル諸事ハ左ノ二件ニ分テ之ヲ論ス
可シ

第一 學校記録ノ体裁

第二 學校記録ノ目的

第一 學校記録ノ体裁 ○學校ノ記録ヲシテ家モ有益
ナラシムルニハ各種ノ學校ト互ニ景況ヲ異ニスル學
校トニ皆適合セサル可カラズ因テ余ハ此書中ニ學校
記録ノ書方ヲ説ク可キヤ否之ヲ決定スル能サリシカ
此記録ノ一事ハ教師ト學校職員トノ為メ其缺ク可カ

テサル又考慮セシカ故ニ終ニ其書方ヲ説ク可キヲ決
セリ冀クハ此書中ニ記スル記録ノ書方或ハ直チニ學
校ノ裨益トナリ或ハ取捨シテ學校ノ裨益タラシムル
カ望ム所ナリ

余謂テク學校記録ノ業ハ第一號ノ入学退學簿第二號
ノ出席行狀簿第三號ノ學業簿第四號ノ要略簿ノ四箇
又ハ之ニ代用ス可キ簿冊ヲ設クルニ非サレハ簡易ニ
シテ完全ナルヲ能ハサル可ク而メ又余カ説ニ於テハ
此四箇ノ簿冊ヲ必スシモ各自ニ設ク可シト為ルニ非
ス或ハ甲ヲ乙ニ合記シ或ハ丙ヲ丁ニ記入ルモ亦其
用ヲ為スニ於テハ敢テ大ナル差支アリトセス又第一

號及七第四號ノ簿冊ハ白紙ニ罫線ヲ引クト容易ナリ
 ト雖モ第二號及七第三號ノ簿冊ハ其罫線ヲ引クト容
 易ナラサルカ故ニ必ス之ヲ印刷ス可キ者トス
 第一號ノ簿冊雜形ハ特ニ解明スルヲ待タスシテ自
 ラ判然タル者ナリ而シテ其雜形ニ記スル諸件ハ以
 テ悉ク之ヲ書セサル可カラスト謂フニ非ズ因
 ト其都合ニ因リ其中ノ箇條ヲ省クト得可ク且此簿冊ニハ
 ㊦㊧ノ順序ヲ用ヒ記シタル姓名目錄ヲ添フルヲ便
 ナリトシ其目錄ニハ簿冊ニ記スル一二三等ノ番號ヲ
 各姓名ニ添ヘテ附記ス可シ
 第二號ノ簿冊ニ記スル姓名表ハ則チ學校生徒ノ姓名

目錄ニシテ毎朝業ニ就クノ後直チニ之ヲ讀上ケ又毎
 夕業ヲ終フルノ前更ニ之ヲ讀上ク可ク而シテ毎朝其姓
 名目錄ヲ讀上クル時已レノ姓名ヲ問テ答フル生徒ノ
 姓名ニハノ印ヲ附ケ毎夕ノ讀上ニ答フル生徒ノ姓名
 ニハヘ印ヲ附ケ朝夕共ニ答フル生徒ノ姓名ニハヘ印
 ヲ附ク可シ又毎朝讀上ノ時不在ノ生徒ハ其姓名ニ對
 スル所ニ・印ヲ附ケ其生徒夕ニ出席シテ其遅刻ノ所
 以ヲ分明ニ辨解スル時ハ其印ヲ變シテ夕ノ出席ノ印
 ト為ス可ク若シ遅刻ノ分明ナル辨解ヲ為スト能ハサ
 ル時ハ行状ノ縦線ニ極メテ小數ヲ記シ其遅刻ノ答ヲ
 示ス可シ又生徒朝夕共ニ不在ナル時ハ出席ノ縦線

學務通論

零數ヲ記シ行狀ノ綴線ニハ全ク數ヲ記スルヲク而
ノ次ノ日ニ至リ前日欠席ノ所以ヲ分明ニ辨解スル時
ハ前日出席シタルト同一ノ數ヲ行狀綴線ニ記シ若シ

簿 學 退 學 入 學 名 號

何年何月何日何月何年何月初日何月何年何日

姓名	生徒	名	籍	籍	住	所	父母	父母	職業	入學	日誌	退學	日誌	退學	私	退學

之ヲ分明ニ辨解スル能ハサル時ハ零數ヲ行狀綴線ニ
記ス可シ但シ行狀ノ善惡ハ毎夕姓名目錄ノ讀上ル時
之ヲ記スルヲ常トシ教師數負アル時ハ其心附キタル
生徒ノ不行狀ヲ速カニ教師長ニ報告シ遲延ナク其由
ヲ簿冊ニ記ス可ク若シ生徒常ニ遲刻シ又ハ數回其業
ヲ怠リ或ハ其不行狀ヲ改メサル時ハ終ニ其罰トシテ
退學ヲ言附ク可シ
生徒行狀ノ善惡ヲ記スルニ取モ便利ナル記號ハ五四
三二一ノ數字ニシテ五ハ至善四ハ善三ハ中等ニハ惡
一ハ至惡ナルノ記號トシ之ヲ出席簿又ハ學業簿ニ用
フル時ハ善惡ニ非スシテ出席ノ多少又ハ學業ノ強弱

其數ヲ記ス可シ而ノ又毎月各生徒ノ得タル數ノ總計
ヲ出席行狀簿ノ家終ノ縦線ニ記シ以テ要略簿ニ移記
スルニ便ナラシム
學業簿ハ數組ニ分チタル生徒ノ姓名ヲ記シ且其復習
ノ出来不出来ノ等級ヲ記號ヲ以テ示ス為メノ者タル
カ故ニ學校中教師ノ負數ニ應シ學業簿數箇ヲ設ク可
ク又此簿冊ニ數字ノ記號ヲ用フルハ出席行狀簿ト相
異ナルナク且其記號ノ義意モ亦相同シキ者トス蓋シ
原目ノ如何ヲ問ハス生徒ノ出席セサルハ既ニ行狀線
ニ之ヲ記スルカ故ニ學業簿ニハ其欠席シタル生徒ノ
姓名ト相對スル所ニ全ノ數字ヲ記スルトナク其他ノ

生徒ハ其學識ノ力ニ准シ能ク意ヲ用ヒテ數字ヲ記ス
可ク而ノ其一週間ノ日毎ニ得タル數ノ總計ハ即チ其
週間ノ全數ニシテ四週間得タル數ノ總計ハ即チ一月
間ノ全數ナリ但シ學業簿ニ生徒ノ一月間得ル所ノ家
大數ハ出席行狀簿ニ於ケルカ如ク亦百ニ過クルト能
ハス
順序ト記セル縦線ハ互ニ一組中ノ生徒ノ學力ヲ比較
シテ其第一第二第三第四第五等ノ順番タルヲ記スル
為メナリ
轉移ト記セル縦線ハ生徒此組ヨリ彼組ニ轉シ又學校
中ニ生徒ノ等級ヲ分チタル時ハ生徒此級ヨリ彼級ニ

報告書ヲ教師長ニ出シ教師長ハ他ノ教師等ノ報告書
 ト折衷斟酌シテ要略簿ニ之ヲ移記ス可シ
 要略簿ニハ生徒等ノ姓名ヲ(エ)(ビ)(シ)ノ順序ヲ以テ記列
 ス可ク且之ヲ記スルニ善ク意ヲ用ザル時ハ各生徒ノ
 学校内ニ於テ行フタル諸般ノ事ヲ総括シテ細密ニ之
 ヲ知ルヲ得可シ
 一期ノ総數ハ其期中數月間ニ得ル所ノ數ヲ合算シ以
 テ之ヲ得可ク而ノ出席ニ付キ家人ノ數ヲ得タル生徒
 ハ出席ノ第一番ト為シ行状及ヒ學業等モ亦之ニ倣フ
 テ其順番ヲ定ム可シ
 第二 學校記録ノ目的○學校記録ノ目的ハ前ニ記シ

要略簿 第四号

何年何月何日		何年何月何日		何年何月何日		何年何月何日		何年何月何日		姓名
出	入	出	入	出	入	出	入	出	入	
學	數	學	數	學	數	學	數	學	數	
行	期	行	期	行	期	行	期	行	期	
出	中	出	中	出	中	出	中	出	中	
學	數	學	數	學	數	學	數	學	數	
行	行	行	行	行	行	行	行	行	行	
出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	
學	數	學	數	學	數	學	數	學	數	
行	行	行	行	行	行	行	行	行	行	
出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	

タル記録法式ヲ以テ略之ヲ推知シ得可シト雖モ猶更
 ニ之ヲ詳明ニ説ク可シ
 教師ノ業ヲ助クルヲ論ス○夫レ時ト勞トヲ省減スル

者ハ善ク法ヲ立テ制度ヲ設クルニ在リ故ニ製作場ニ於テモ兵隊ニ於テモ學校ニ於テモ若シ其規則法度ノ寬ニ過クル時ハ真ニ能ク其功ヲ成就スルヲ得可キニ非ス是以テ學校ニ於テモ亦前ニ記スルカ如ク數箇ノ簿冊ヲ設ケ生徒ノ勤惰賢愚ヲ審カニスル時ハ學校ノ為メ資益アルト其少許ノ煩勞ニ十倍シ且其學校ノ整齊ヒシ模様ヲ見テ以テ愈快ノ限ナキヲ覺フ可シ然ルニ若シ此等ノ簿冊ヲ設ケサル時ハ教師其生徒ニ對シ賞罰稱讚訓誡進級退級等ヲ為スニ間誤課ヲ免ル、能ハサルハ固ヨリ言ヲ待タスシテ學校ノ事務ヲ管理スルニモ亦其基礎タル可キ者ノアラサルニ困ル可シ

父母及ヒ學校職員ニ生徒ノ模様ヲ知ラシムルノ益アルヲ論ス○夫レ簿冊ヲ記スルニ意ヲ用ヒ敢テ誤課ナカラシムル時ハ其簿冊ハ即チ學校ノ小歴史タルカ故ニ各生徒ノ傳記ヲ總括シ之ヲ知ルヲ得テ生徒ノ入學シタル期日、學校ニ於テ修業シタル年月ノ數、其退學ノ所以、其缺席シ又ハ遲刻シタル日數、其行狀ノ善惡、其學ヒタル科目、其學業ノ進步等皆一目シテ瞭如タルヲ得可シ故ニ此簿冊ハ其父母及ヒ學校職員ノ為メ家モ必要ナル者トシ兼テ又同一ノ地方ニ在ル此學校ヲ彼學校ト比較シ或ハ本年ノ模様ト前年ノ模様トヲ比較スルヲ得セシムルノ益アリ

教導ノ表紀スラスラヲ知ラシムルヲ論ス○我米利堅ノ教導ノ
 表紀ハ極メテ信據スルニ足ラサルカ故ニ其表紀ニ基
 キ以テ推考スル時ハ必ス許多ノ謬誤ヲ免レサル可ク
 是レ全ク學校ニ於ケル記録ノ未タ完備セサルト之ヲ
 書記フル方法ノ其宜シキヲ得サルトニ可ル者タル可
 シ因テ思フニ學校ノ職負新々ニ學校ノ法則ヲ設ル之
 ヲ施行セント欲スルニハ必ス先ツ各所ニ於ケル學校
 ノ模様ヲ詳細ニ知得セサル可カラス而メ此等ノ模様
 ヲ知得ヒシムルハ即チ學校記録ノ目的中其一タルカ
 故ニ學校ノ記録ニハ母歲各所ノ學區ニ於テ學校ニ出
 ツ可キ年齢ニ至リシ兒童ノ全數各學校ニ出席スル兒

童ノ全數各學校ニ出席スル兒童ノ中數生徒一人ニ付
 テノ學費學校ヲ分ツ等級ノ數各等級ニ在ル生徒ノ數
 各學校及ヒ各等級ニ於テ學ノ所ノ科目等ヲカメテ審
 ニ記セサル可カラス而メ又此等ノ諸事ハ要スルニ必
 スシモ悉ク學校ノ記録ヲ就キ之ヲ知リ得可キニ非ス
 ト雖モ若シ學校ニ記録ナクハ將タ何ヲ以テカ其表
 紀ノ大略ヲ測リ知ルヲ得シヤ
 教導ト豊富勞動罪科政治法教等ト相管スル模様ノ如
 キ教導ノ高尚ナル眼目ニ於テモ亦學校ノ記録ニ記ス
 ル明白詳細ナル表紀ニ就キ之ヲ見ル時ハ終ニ其疑ヲ
 断決解釋スルヲ得可キカ故ニ教師ノ懇切ニ意ヲ用ヒ

實事ヲ記シタル學校ノ簿冊ハ終ニ世人開化ノ一大疑
事ヲ解明スル功績ヲ奏ス可シ
生徒ノ為メ自カラ益アルヲ論ス○抑學校記録ノ用法
其宜シキヲ得ル時ハ教師ヲ助ケ生徒ノ出席ヲ齊整シ
テ其行狀ヲ善ナラシメ以テ學業ニ勉勵セシムル一有
益ノ器具ト稱スルニ足ル今夫教師タル者生徒ニ過失
アル時之ヲ譴責シ不善アル時之ヲ懲罰スルニ若シ其
譴責一旦ニシテ消亡シ其懲罰立ニシテ遺忘ス可キ者
タル時ハ生徒ノ之ヲ畏怖スル者固ヨリ寡ナカラサル
可シト雖テ顧ミルニ其不善ト過失トヲ記録ニ上セ以
テ永ク後ニ傳フルノ虞慮アルニ至テハ舉テ之ヲ畏懼

セサル者ナカル可シ故ニ前ニ記シタル學校記録ノ法
式ニ據ル時ハ教師タル者常ニ注意シテ各生徒ノ每週
毎月每期其得ル所ノ數ヲ合算シ以テ各生徒ニ其傳記
ノ如何ヲ示シ之ヲ戒ムルヲ得可ク且教師ハ時アリテ
一月間各生徒ノ互ニ得タル數ヲ讀上ケ或ハ各生徒ノ
出席行狀學業順序ヲ抜書シテ之ヲ其父母ニ送ルヲ良
トス

學校ノ記録ハ其學校ニアル生徒ノ為メ前ニ記スルカ
如キ資益ヲ為ス可シト雖モ若シ之ヲ注意ヲ加ヘサル
教師其記録ヲ設クル時ハ要スルニ學校ノ為メ益アル
ヨリ寧ロ其害ヲ生スルト多ク又頗ル注意ヲ加フル教

師ト雖モ生徒ノ心中誠實ヲ尊ミ義務ヲ顧ミルカ如キ
學業ヲ為スニ家貴ノ志ノルヲ稱讚シ之ヲ記録スルノ
主要タルヨリ其徒ヲニ榮名ヲ欲シ或ハ湯ニ進級ヲ希
フ志ヲ賞譽シテ轉之ヲ記録スル過失ノ無キハ亦保マ
可キニ非ス然レモ學校ノ記録記載ノ法其宜シキヲ得
テ規則ニ適スル時ハ常ニ學校ヲ管理統制スル家貴ノ
一取タル者トス

第二章 學校ノ編制

學校ノ編制トハ學校通論ノ中ニ於テ學校諸般ノ装置
ヲ整齊シ生徒ノ地位ト義務トヲ定メ學校ノ所業ヲ督
理スルニ其必要ナル規則ノ設立ヲ論スルヲ其旨趣ト
ス蓋シ學校ノ編制其宜シキヲ得ル時ハ教師ヲシテ家
モ少許ノ時間ニ家モ夥多ノ事業ヲ為スヲ得セシメ且
其事業ノ實效家モ大ナルヲ得セシム可ク又學校ノ政
務ヲ容易ニシ以テ其功カアラシメ加フルニ生徒ヲシ
テ其學業ノ進歩ヲ家モ迅速ナラシム可キ摸樣ニ至ラ
シムルヲ得可シ

此書中説ク所ハ專ラ等級ヲ立テサル公立學校ノ編制

ヲ以テ主ト為スト雖モ要スルニ亦他種ノ學校ヲ編制
スル方法モ傍ラ之ヲ記入セサルヲ得ス

學校編制ノ事ハ之ヲ説クニ分テ二トスルヲ便ナリト

ス即チ其別ハ左ノ如シ

第一 學校ノ一時ノ編制

第二 學校ノ永久ノ編制

○第一 學校ノ一時ノ編制

夫レ家モ事務ニ諳熟スル教師ト雖モ新ニ學校管理ノ

任ヲ受クル時ハ其業ヲ為スノ差支ヲ除去スル為メ已

レノ設立ス可キ整齊ノ方法ト相管シタル諸般ノ景況

ハ原ト能ク之ヲ先知シ得可キニ非ス故ニ一時已ムヲ

得ス假リノ編制法ヲ設ケ以テ實際上ニ經驗シ若シ其

差支ナキ時ハ之ヲ永久ノ者ト定ム可シ而ノ其一時ノ

編制ノ益アルト否トハ之ヲ編制スルニ付キ其大綱目

ト為ス所ノ良否ト相管スルカ故ニ今此ニ大綱目ノ要

略ヲ揭示ス可シ

夫レ教師教導ノ業ヲ為スニハ先ツ第一ニ其始ヲ以テ

大切ト為ス可シ若シ其教導ノ初日ニ拙劣ノ徴ヲ顯ハ

ス時ハ生徒ノ心中自カラ其教師ヲ尊重セサルノ意ヲ

生シ容易ニ之ヲ消除ス可キニ非ス蓋シ世ニ敏捷ニシ

テ穿鑿ニ鋭キ兒童輩互ニ眼ヲ其教師ノ為ス所ニ注ス

ルニ教師ノ此際ニ於テ或ハ已レノ為ス可キ所ヲ知ラ

サル者アレバ此ノ如キハ其困惑實ニ之ニ過ル者ナカ
 ル可ク又児童ノ性タル意外ニ善ク人ノ品質ヲ窺ヒ知
 ルノオアリテ其教師ニ教師タル技量ノ有無ハ必ス忽
 チ之ヲ判断スル者ナリ故ニ児童等授業ノ初日ニハ必
 ス皆急テ学校ニ赴キ新教師ノ各言語毎動作ニ注意シ
 其品質ト其技量トヲ思度シテ其業ヲ終フル時ハ直ニ
 馳セテ其家ニ歸リ以テ己レノ判断セシ教師ノ才否ヲ
 各其父母ニ告ルヲ常トス而ノ又児童ハ頗ル批評ヲ善
 クシ良否ヲ説ク者タルカ故ニ授業ノ初日ニ児童ノ惡
 評ヲ受ケサル教師ノ頗ル幸ト謂フ可キナリ
 凡ソ何事ニ限ラズ一定ノ方法ヲ立ルノ必要ナルハ敢

テ言フ待タサル所ニシテ船長ノ船ヲ指揮シ工監ノ工
 作場ヲ管理シ將帥ノ兵ヲ率中ルカ如キ皆一定ノ方法
 アラサルハナク而メ学校ノ編制ニ於ケルモ亦之ト異
 ナルナキカ故ニ或ハ世ニ教師タル者其学校ノ編制ヲ
 定メス其教導ノ方法ヲ立テス以テ其業ヲ初メ次第ニ
 練熟シテ之ヲ繼續スル者間其例ナキニ非スト雖モ如
 此ハ要スルニ生徒ノ為メ至重ノ益ヲ失ヒ且教師中十
 ニ八九ハ必ス自カラ其業ノ遂ク可カラサルヲ悟リ速
 カニ其職ヲ辭スルヲ欲スルニ至ル可ク是實ニ慨歎ニ
 堪サル所ナリ故ニ教師タル者能ク初メヨリ編制ノ方
 法ヲ設ケ以テ生徒ヲ教授スル時ハ其教師タルノ功ヲ

遂ケ榮名ヲ得ルヤ必然タリ
新クニ教師タル者ハ其業ニ取掛ル前ニ先ツ未ク巳
ノ知得セサル学校近傍ノ地ヲ廻視スルヲ良トス然レ
氏詳細鎖末ノ諸事ハ嘗テ其地方ニ住スル学校職負若
クハ其地方ニ於テ学校ノ事ニ配慮スル者ニ問ヒ以テ
之ヲ知ル可キカ故ニ必ス問ヒ其学校ニ管係アル者ヲ
舉ケ悉ク之ヲ尋問スルニ及ハス其業ハ時々大ニ
教師タル者学校ヲ編制スルニ取モ必要ト為ス所ハ左
ノ諸件ヲ了知スルニ在リトス
第一 学校ノ事ニ付キ近傍人ノ見込ヲ了知ス可キヲ
論ス○凡ソ百般ノ事ヲ為スニ付キ互ニ其見込ヲ異ニ

セサル者ナク而シテ児童教導ノ見込ニ於テモ亦其中ハ
一ナルカ故ニ各地方亦互ニ之ヲ異ニシテ相同シキト
能ハサル者ナリ故ニ教師ハ其見込ノ道理ニ適ヒ人民
ノ自由ヲ保スルト否トニ管セス必ズ之ヲ知得ス可キ
ヲ緊要トス是レ教師ハ学校ヲ編制スルニ若シ近傍諸
人ノ見込ニ過差アルヲ知ル時ハ断然之ニ従ハス更ニ
適宜ノ處置ヲ為シ以テ近傍人ニ其見込ノ誤タルヲ悟
ラシム可ク必スシモ其見込ニ従ハサル可カラスト為
スニ非サレバ要スルニ近傍人ノ見込ハ亦程ヨク之カ
注意ヲ加ヘ取捨ス可キニ在レハ豫メ其見込ノ何者ヲ
ルヲ知ラサル可カラサルニ在リ然ルニ若年ニシテ激

烈ナル教師ハ近傍人ノ評論其如何ヲ捨テ全ク之ヲ問
ハサルニ因リ大ニ事ヲ過シ者間少シトセス故ニ学校
ノ改革ハ其他諸般ノ事ニ於ケルカ如ク次第ニ順序ヲ
追テ之ヲ為ス可ク然ラザレハ永續ノ効ヲ得ルヲ能ハ
サル可シ
第二 以前ノ教師ノ學校ノ事務ヲ取扱フタル方法及
ヒ教導ヲ為セシ方法ヲ了知ス可キヲ論ス○新教師々
ル者ハ前教師ノ學校ヲ管理セシ方法及ヒ教導ヲ為セ
シ方法ヲ了知セサル可カラズ而シテ其然ル所以ハ必ス
シモ前教師ノ方法ヲ見テ之ニ倣ス可キカ為メニ非ス
又之ヲ誹謗ス可キカ為メニ非ス即チ前教師ノ行フク

ル教導ノ方法ト已レノ新タニ為サントスル教導ノ方
法ト其接合ヲ善ナラシメ且従前ノ管理法ヲ一變シ以
テ後來ノ管理法ヲ設クルノ急ナルニ過キサラシムル
カ為メナリ而シテ又新教師前教師ノ用ヒシ方法ヲ了知
セント欲スルニハ頗ル其力ヲ盡ス可ク因テ或ハ之ヲ
生徒ニ問ヒ或ハ學校近傍ニ住ム教導事務ニ配慮スル
者ニ問ヒ以テ之ヲ知ル可ク殊ニ現ニ前教師ト面話ス
ルヲ得ル時ハ其用ヒシ方法ハ言ヲ待タズ其他學校ニ
管スル諸事ヲ了知スルノ便ヲ得可シ
新教師初日ノ業ハ生徒ノ信仰ト尊敬トヲ得テ人望ヲ
収ムルヲ以テ其眼目トス可シ而シテ之レカ為メニハ教

師初日ノ朝早ク学校ニ赴キ学校ヲ整齊シテ生徒ノ来
ルヲ待ツ可ク然ル時ハ近傍ノ茅舎農家大厦ヲ論セス
父母皆速カニ児童ノ支度ヲ為シ殆ント朝飯ヲ喫スル
ノ暇ナク之ヲ学校ニ赴カシメ新教師ニ接セシム可シ
而メ教師ハ亦其初メテ相接スル生徒ニ對シ敢テ虞慮
ノ心ヲ懷ク可カラズ其生徒ノ尚三輩或ハ五六輩次第
ニ集合スルニ從ヒ其中或ハ粗暴ニシテ礼ヲ知ラサル
者アリ或ハ丁寧ニシテ礼ヲ知ル者アリ活潑ナル者ア
リ沈著ナル者アリ猛激ニシテ毀害ヲ為スヲ好ム者ア
リ謙遜ニシテ恭順ナル者アルヲ見ル宛モ己ノ周圍
ニ一小世界ノ有ルカ如クナルニ注意シ能ク各生徒ノ

性質ヲ辨知ス可ク且其各生徒ノ来ルニ從ヒ之ト談話
シテ或ハ什具ヲ陳列スル方法ニ付キ其説ヲ問ヒ或ハ
学校ヲ管理セシ以前ノ方法其如何ヲ問フ可シ夫ノ高
名ナルドクトルフランクリン氏ノ語ニ汝カ敵ヲ汝ノ
友ト為スニハ敵ニ扶助ヲ求ムルニ若カスト此語誠ニ
事實ニ適スル者ニシテ縱令性質不善ニシテ毀害ヲ欲
スル児童ト雖モ教師之ニ倚賴シテ共ニ事ヲ謀ルノ意
ヲ示ス時ハ肯カラ善ニ移リ敢テ毀害ヲ為サルニ至
ル可ク且教師初日ニ生徒ニ謀ルニ学校ノ事務ヲ以テ
スル時ハ其生徒ヲシテ所謂学校念ヲ發セシム可シ但
シ初日ニ父母其児童ト共ニ学校ニ来ル時ハ教師懇切

ニ之レト談話シテ諸般ノ事ヲ謀ル可シ
又教師ハ生徒ニ告クルニ学校ヲ開ク時刻ヲ以テ不可
シ然ル時ハ丁度其時刻ニ至リ小鈴ヲ鳴ラシテ其言附
ノ如ク生徒ヲ呼出スヲ得可ク又生徒ハ其以前ヨリ定
マリタル坐席ニ就キ親友ハ相接近シテ居リ又寫字臺
ノ高サ互ニ異ナル時ハ生徒ノ身ハ丈ト其年齒トニ准
シ之ヲ列ス可シ蓋シ生徒ノ坐席ヲ擇ムハ未ダ学校ヲ
開カサル前ニ之ヲ為スヲ良トシ且教師ハ生徒中ニ一
其席ヲ擇ム者ニ注意シ其擇ム所以ヲ問フ可シ然レモ
亦権柄ヲ以テ強テ其坐席ヲ擇ムニ干涉ス可カラズ而
ノ若シ生徒ヨリ其坐席ヲ擇ム可キノ求メヲ受クル時

ハ適宜ニ之ヲ擇ム可シト雖モ敢テ永久ノ坐席ヲ定ム
可カラス
斯クノ如クシテ生徒皆其席ニ就キタル後善ク已レノ
事業ヲ解スル教師ハ其為ス所ヲ知リ以テ学校ノ編制
ニ取掛ルト雖モ事業ヲ為スノ結構ヲ定メス教導ノ設
備ヲ為サシル教師其心ニ学校ニ充ル生徒等ノ擧テ已
一カ擧動ニ注目シ毎事之ヲ評論スルヲ知リ自カテ其
為ス所ヲ知ラサルカ如キハ其困難實ニ之ニ過タル者
ナカレ可シ故ニ教師ノ第一ニ為ス可キハ必要ナル規
則ノ綱目ヲ定ムルニ在テ然ル時ハ惡習ノ生スルヲ其
初メニ防クカ故ニ後ニ辛勞シテ之ヲ改ムルノ煩ナク

且生徒ヲシテ一定ノ法則ニ循フニ慣レシムルノ益アリ然ル一若ン初メヨリ規則ヲ設ケス寛裕ニ過クル時ハ終ニ紊亂ヲ生スルノ原由ヲ致ス可シ又教師ハ生徒ヲシテ斯ク設立スル所ノ規則ノ皆永久ノ者ニ非スシテ一時假ニ定ムル者タルヲ解セシム可ク而メ其規則中或ハ終ニ永久ト為ス可キ者アリテ其永久ヲ期ス可キ者多キ時ハ益其便ヲ得可シト雖モ其中必ス後ニ更改セサルヲ得サル者アル可キカ故ニ總テ其規則ハ常時ニ行フ可キ假ノ規則ト看做スヲ以テ良法トス夫レ何事ニ限ラス屢法則ヲ變更スル時ハ人ノ信心ヲ失フ可ク而メ學校ノ規則モ亦之レト異ナラ

サルカ故ニ學校ヲ管理スルニ初メヨリ一定シテ動カス可カラサル永久ノ法則ヲ立ルト生徒ヲシテ其意ニ任セシメ取テ一ノ法則ヲ設ケサルト此二者中其何レカ害ノ大ナルヲ知ラスト雖モ要スルニ其共ニ害ヲ生スルノ常タルハ疑ヲ容レサル所ナリ然レモ學校ニ於テ教ユル所初メヨリ確然一定シ又ハ學校ノ教師ヲ易ハサル時ノ如キハ取テ前文ノ論ヲ適用ス可キニ非ス前ニ記スル假リノ規則中家モ緊要ノ者ハ左ノ諸件ニ管ス

第一 坐席○教師ハ生徒ニ告ルニ其自カラ擇ミタル坐席ニ居リ又ハ教師ノ定メタル坐席ニ居ル可キヲ以

テス可シト雖モ是レ一時ノ事ニシテ敢テ永久ノ事ニ
非ナルカ故ニ學校ヲ整齊スル為メ已ムヲ得サルノ事
アル時ハ後ニ之ヲ變更ス可キノ旨ヲ以テ、ルヲ頗ル
良法トス又或ル學校ニ於テハ生徒互ニ遊戯又ハ談話
ノミヲ旨トシ相接近シテ坐ニ就カント欲スルノ惡習
ヲ致ス者アルカ故ニ教師縱令現ニ其教ヲ施ス學校ニ
於テ此ノ如キ惡習ナキヲ思ノト雖モ勉学スル者他ノ
妨害ニ罹ルヲ制止ス可キ法則ヲ設ク可ク而シテ其法則
ハ毫モ各人ノ權利ヲ害スルナク人ヲ妨害ヒント欲ス
ル者ヲ制止ス可キ為メナルヲ各生徒ニ諭示スルモ亦
其宜シキヲ失フタル者トセス

第二 學校ヲ開閉スル時刻○學校ヲ開閉スル時刻ヲ
知ラシムレハ生徒ノ為メニモ其父母ノ為メニモ必要
ニシテ初メヨリ其時刻嚴重ナル時ハ日後常ニ規則ニ
違フ者稀ナルニ至ル
第三 休業ノ時刻○休業ノ時刻ハ學校ノ模様ニ管ス
ル者ト雖モ假ニ初メヨリ其時刻ヲ定ム可ク若シ不都
合ナレハ之ヲ易ルヲ容易ナリ
第四 坐ヲ立テ教師ニ問フ○此一事ニ就キ假ノ規
則ト為ス可キハ生徒ヲシテ坐ヲ立テ又ハ教師ニ問ハ
ント欲スル時其手ヲ上ケシメ教師之ヲ見ニ其宜シキ
ニ從ヒ或ハ之ヲ許ルシ又ハ許ルサニ在リ

第五 私語○學校編制規則ノ永久ノ者タルト一時ノ者タルトヲ問ハス私語ヲ防制スルハ甚ク為シ難キ者ナリ因テ今余カ家良ト思フ所ヲ言フニ蓋シ學校ノ室ハ原ト靜カナルニ非ナレハ得テ學習復習ヲ為ス可キニ非ス然ルニ私語ト雖モ之ヲ慎マサレハ終ニ大聲ニ轉シテ學業ノ害ヲ為シ易キカ故ニ互ニ勉メテ相戒ム可ク且談話ヲ好ム者ハ之レカ為メ無益ニ時間ヲ費スノ恐アルトテ教師ヨリ諸生徒ニ諭示スルニ在リ然レハ教師ハ又更ニ諸生徒ニ告クルニ此生徒ヨリ彼生徒ニ其意ヲ通セサルヲ得ス又ハ此ヨリ彼ニ其疑ヲ問ハサルヲ得サルト問ハカテサレハ必スシモ嚴ニ私語ヲ

禁スルニ非ス唯人ノ害ヲ為サ、ルニ注意ノ可キヲ以テス可シ然ル時ハ生徒等此規則ヲ以テ敢テ不滿ノ心ヲ懷カサル可ク而メ猶或ハ私語ヲ為シ學業ヲ妨クルノ害ヲ生スル時ハ更ニ之ヲ禁ス可キニ定メ規則ヲ設クルモ生徒等敢テ之ニ抗抵スルノ念ヲ生セサル可シ蓋シ教師此趣向ヲ用フル時ハ後ニ全ク私語ヲ禁スルニ至リ自カラ擅断ヲ為スニ非スシテ其咎生徒ニ在ルヲ示スヲ得可ク是レ余カ思フ所ノ家良ノ法ニシテ授業ノ初日ヨリ一ノ良法ヲ設ケサル可カラサル所ナリ

第六 行狀○夫レ授業ノ初日ヨリ學校ノ法則ヲ定ムルノ細密ニ過クル時ハ生徒必ス之ヲ快シト思ハサル

可シ是レ細密ノ規則ハ開學校ノ模様ト相適セサル者
 多キガ故ニ教師ノ事業ニ諳熟セサル徵ヲ顯ハスニ等
 ク且生徒ハ其細密ナル規則ノ緊要ナルヲ測リ知ル
 能ハサルカ故ニ之ヲ教師ノ擅断ニ出ルト為シ以テ心
 服セサル可キニ因ル故ニ行状ニ管スル規則ノ如キモ
 教師ハ亦其目撃シタル學校ノ模様ニ從ヒ諸生徒ノ面
 前ニ於テ已ムヲ得サル所ニ就キ以テ之ヲ設ク可ク將
 來生セントスル事ヲ思料シ預メ其規則ヲ設ク可カラ
 ス既ニ生シタル事ニ就キ以テ之ヲ設ク可シ故ニ初日
 ニ於テハ唯行状ノ事ニ付キ正シク為スコシト云ヘル
 大綱目ノミヲ定メ諸般ノ事ハ其中ニ包括セシム可ク

然ル時ハ生徒或ハ不善ヲ為ス^トアル時自カラ此大綱
 目ニ背ク^ヲ已レノ本心ニ覺エサルノ得ヌ

第七 事業○抑教師其初メニ當リ生徒ニ課業ヲ授ケ
 之ヲ學ハシムル所以ハ敢テ日後其定課ト為スコキ者
 ヲ定ムルカ為メニ非ス唯目今ニ於テ其課業ト為スコ
 キ者ヲ授クルニ在リ而ノ等級ヲ立ル學校ニ於テハ教
 師如何ナル課目ヲ生徒ニ學ハシム可キヤ又如何ナル
 課ヨリシテ教導ニ取掛ル可キヤ此等ノ事ヲ略シ知シ
 得可キカ故ニ敢テ之ヲ檢査スルノ猶豫ヲ要セスト雖
 モ等級ヲ立テリル學校ニ於テハ新教師如何ニ生徒ヲ
 組合ハスコキヤ如何ナル課目ヲ學ハシム可キヤ如何

十ル部分ヨリ諸學課ノ教導ニ取掛ル可キヤ特ニ此等ノ事ヲ取調ヘ以テ検査スルニ非レハ了知スルヲ得サルノ間、少ナシセズ殊ニ此等ノ取調及検査ヲ為スニハ若干ノ時間ヲ要セサル可カラサルカ故ニ教師ノ此事ヲ為ス時間ハ生徒ヲシテ如何ナル事業ヲ為サシム可キヤ曰ク此間ニ於テハ生徒ノ以前學習セシ所ヲ閱シ其當時ノ學識ヲ試ム可キ為メ雜種ノ課業ヲ授ク可ク又然ラサレハ生徒ニ告クルニ以前、教師ニ就キ其學ヒタル家終ノ課業ニ繼テ其課目ヲ學フノ設ノヲ為ス可キヲ以テスルノ良法トス而メ又此等ノ事ハニカノ時間ニ於テ之ヲ為シ終ル可キカ故ニ教師ハ生徒ノ

其為ス可キ所ヲ知リ其事業ニ取掛ル間自カラ石筆ト紙トヲ持テ生徒ノ坐席ヲ廻テ各生徒ノ姓名ヲ記シ且其命セシ如ク事業ニ取掛リタルヤ否ヲ檢視セシ上各生徒ノ所持スル書籍ノ名、其以前學ヒタル學科ノ名、目今學ハントスル學科ノ名等ヲ書留ム可ク然ル時ハ暫時ニシテ容易ニ假ノ組合ヲ立テ復習ヲ為サシムルヲ得可シ但シ教師ハ初日ノ業ヲ終ヘ其夜ニ入リテハ生徒ノ姓名ヲ簿冊ニ記シ且其日實際ニ知リ得クル所ニ從ヒ已レノ立ントスル規則ヲシテ學校ノ模様ニ吻合セシムルニ勉ム可シ

生徒ノシテ初日ニ復習ヲ為サシムルノ組合ヲ為ス

ナク唯群集シテ之ヲ為サシム可ク又復習セシムル学
科ハ普通ノ者ニシテ其目的ハ生徒ノ以前学ヒタル学
科ニ於テ何程進業セシヤ之ヲ詳カニ取調フルニ在リ
然レモ斯クノ如クニシテ教師數日間試業ノ為メノ復
習ヲ為サシメサル時ハ生徒ノ組合ヲ定メ且各生徒ノ
以前終業セシ者ニ繼キ更ニ其本業ヲ初メシノ以テ紊
亂ヲ變シテ整齊ニ至ラシムルヲ得サルノ間少ナシト
セズ

ニ其創製ノ日ハ特ニ其カヲ勞スレモ既ニ其成就スル
ニ及ヒ之カ功用ヲ為サシムルハ易キカ如ク學校モ亦
一旦其編制ヲ為シタル後ハ之ヲ管理スルノ易カル可
シ故ニ教師タル者其初メニ當リ各生徒ノ坐席學校ノ
規則學習復習ノ課目等ヲ定メ永久ノ者ト為スニハ數
日又ハ數週間熟思シテ之ヲ為サ、ルヲ得サル者アリ
然レモ教師ハ常ニ其心ヲ竭シ一日ノ暇モ永久ノ編制
ニ怠ル可カラズ須カラク勉勵シテ其業ヲ遂クヘシ

